

ピロリ菌

(ヘリコバクター・ピロリ)



ピロリ菌は胃の粘膜にすみつく細菌

ピロリ菌を**長期間放置**していると、胃炎や胃潰瘍など胃の病気に深く関わっていることが明らかにされてきました。

子供のころかに感染し、一度感染すると多くの場合、**除菌しない限り胃の中に住み続けます**。ピロリ菌に感染すると、炎症が続きますが、**この時点では症状がない人がほとんどです**。

強い酸性の胃の中でも生息できるピロリ菌

なぜピロリ菌は胃の中で生き続けるのでしょうか。

それは、ピロリ菌が出している「**ウレアーゼ**」という酵素にあります。

この酵素は胃の中の尿酸を分解し**アンモニア**を作り出します。

アンモニアはアルカリ性なので、ピロリ菌のまわりの胃酸が中和され生息できるのです。

ピロリ菌セルフチェック

- ✓ 胃炎や胃・十二指腸潰瘍にかかったことがある
- ✓ 胃の不快感が長期間(半年以上)続いている
- ✓ 薬を飲んでも一時的にしか回復しない
- ✓ 健診の胃のバリウム検査で異常を指摘された
- ✓ 1970年以前に生まれている
- ✓ 衛生環境の悪いところに住んでいたことがある
- ✓ 家族にピロリ菌の感染者や、胃潰瘍・胃がんの人がいる

上記に**複数項目当てはまる人**はピロリ菌に感染している可能性があります。

ピロリ菌の検査について

内視鏡『胃カメラ』による検査での確認と内視鏡以外の確認方法があります。

○**迅速ウレアーゼ法**…ピロリ菌が持っている「ウレアーゼ」を利用して、採取した胃粘膜を特殊な反応液に入れて、その色の変化で判定します。結果は次の日以降になります。

○**尿素呼気試験**…検査薬を服用してから 20 分後の呼気を採取します。

ピロリ菌の酵素「ウレアーゼ」の働きで作られる二酸化炭素の量を調べます。

○**血液検査**…血液中に含まれるピロリ菌抗体を調べます。

※初回、内視鏡を実施しないと保険診療の対象にはなりません

ピロリ菌の治療

薬の服用で除菌します。これで、約 9 割の人が除菌に成功するとされています。

治療終了し再度検査をし、除菌されたかどうかを確認し治療終了です。



私たちは愛のある対応を心掛けております